

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400096		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 安房穂		
所在地	千葉県南房総市ワ町黒岩9-1		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和4年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>南房総の温暖な気候の中、小学校跡地造られたに木造平屋建ての1ユニットのグループホームで、敷地内には同法人の高齢者専用住宅が併設している。同一医療法人の協力病院との関係性は構築されており、特に訪問看護師はすべての利用者の健康管理に努めDr.との連絡調整を怠ることなく利用者の安心に繋げている。敷地内の畑で収穫した野菜を利用し、メニューづくりを行い、手作りの家庭料理を提供している。味噌づくり、おはぎ・梅干し・梅シロップ・ゆかり・切り干し大根・漬物(たくあん・べったら・甘酢漬け)作り等、昔ながらの家庭の営みや味が楽しめるよう支援している。全員参加のカレー作りや豚汁づくりは皆さん楽しんでおられる。外出は少人数に分かれて、季節の花や紅葉を楽しめるよう支援している。また、残存機能の維持向上を目指しリハビリやレクリエーションを行い利用者様の望む暮らしが実現するよう支援している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は「地域の方との触れ合いと助け合いを大切にして、入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する事とする。」として、ホームページ内に掲示し、ホームページにも掲載している。月1回のカレーや豚汁作りは全員が参加している。また、掃除、洗濯物たため、食事の後片付けなどを職員の見守りのうえ実施している。利用者が役割を持ち、残存機能を活かす取り組みだと思われる。月1回の協力医の受診および週1回の訪問看護により、健康管理をしている。いずれも24時間対応が可能である。ホームでは看取りにも対応している。外出は人数を制限しながら、コロナ禍以前と同様に花見等に出かけている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの際全員で唱和して実践に繋がるよう心掛けています	理念は「地域の方との触れ合いと助け合いを大切にして、入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する事とする。」としてホーム内に掲示している。管理者は職員に周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が少なくなっているが回覧板を回して頂き地域の情報を収集するとともに組長さんと言葉を交わす機会を作っている	コロナ禍で制限しているが、地域のお祭りの山車が来てくれたり、中学校の職場体験を受け入れたりしている。回覧版に認知症グループホームの紹介や介護相談の受付の案内を掲載する予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてのかわら版を作成し地域の方が立ち寄りやすい環境を作るよう心掛けています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で一堂に会した会議はできておらず、ホームのサービスの様子をお知らせし、ご意見などは個人的に受けている	今年度は書面での報告としているが、例年の運営推進会議には家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター担当者などが参加している。施設内や入居者の状況および行事報告、事故報告などを行っている。	利用者家族をはじめ参加者から意見をもらい、ホームで対応を考えて示すなど、書面であっても双方向の会議として活性化を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	PCR検査などの行政の意向等メールでのやり取りをし協力関係を築いている。運営推進会議には地域包括支援センターより参加して頂き事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを伝えている	市の担当課とは日頃からやり取りをしている。地域包括支援センターは運営推進会議に出席してもらっており、情報交換をしている。いずれも良好な関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職して1年目、2年目の職員もおり理解が不十分な職員がいるが、事業所としては身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間職員が1人の時は玄関の施錠をしている	「行動指針」を作成しており、身体拘束の具体的な行為を示し、そのような行為をおこなわない旨を記載している。身体拘束廃止委員会を3か月に1回実施しており、具体的に、スピーチロックや言葉遣いなどについて話し合うとともに、身体拘束の適正化の研修の場ともなっている。	「行動指針」には、「緊急・やむを得ない場合の例外三原則」及び経過記録、早期の拘束解除に向けての検討についてや委員会の設置、研修についてなどを盛り込むこともよいと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、高齢者虐待防止関連法について学びんでいる。入浴時のボディチェック等チーム全体で注意を払い防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を通して学ぶ機会を持ち理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明し同意書を頂いている不安や疑問点については電話で対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応時に意見や要望を伺う様にしている 家族の心配事が1つでも減らせるようできる限り運営の反映させている	日常的に電話や訪問時に意見を受けている。利用者家族の要望を反映して、かかりつけ医受診時の家族の負担軽減やレクリエーションを増やすなど、できる限りの対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時、週1度のカンファレンスの際や、月1度のミーティングの時に意見や提案を聞く様にしている	申し送りやミーティング、カンファレンスなどを利用して日常的に話し合うことができている。意見は活発にでており、リビングでの利用者席替えについて検討している。今後は管理者による職員との定期的な個人面談も予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々のやりがいなどを考え向上心を持って働けるよう心掛け職場環境を整うよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、初任者研修や事業所内の研修への参加を促しそれぞれのスキルアップを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム管理者の集い」を地域の管理者が集まり行っていたが、コロナ禍で中止となっている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長年住み慣れた家を離れ入居される利用者の不安な気持ちに寄り添い安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安な気持ちを汲み取りラインでの情報交換や写真のやり取り等に協力し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とコミュニケーションを図り支援の優先順位を決め困りごとがひとつずつ解決したり、ホームが居心地の良い場所となるようコミュニケーションを多めにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プランターでの野菜作りは昔取った杵柄でコツや手順を教えて頂いた 人生の先輩として話を聞かせて頂いたり、こちらの話を聞いて頂いたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族の役割が限られてしまっているが、全ての家族が絆を大切にし協力的で、できる限りの支援をしてくださり、協力関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方とはガラス越しやビニール越しで面会して頂いている コロナ禍で交流が途絶えてしまっている方もいるが、手紙などで関係が継続されている方もいる	コロナ禍以前は墓参りや外食などの外出、自宅への一時帰宅、また、食材の買い出しなどを自由におこなっていた。現在は電話の取次ぎや手紙のやり取りの支援などを行っている。また、家族などとの面会は、感染予防対策を徹底したうえで、ガラス越しで可能としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶を共にし色々な利用者同士が関わり合いを持てるよう席替えをしたり、ソファへの誘導をしたりしている 耳の遠い方には間に入りコミュニケーションが継続できるよう支援している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても法人内の病院に入院した際はお見舞いに行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年ごとにケアマネが意向を把握してケアプランに反映させている 職員は日々の業務の中で把握に努め希望に添える事を個別支援に繋げている	利用者の思いや意向は、契約時に管理者が聞き取り、介護計画に反映させている。入居後は、日々の支援の中で把握に努めたり、利用者にアンケートで5段階の評価を付けてもらうなど工夫している。意思疎通が難しい利用者には、表情や仕草、生活歴から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、サービス利用をされていた方にはこれまでの担当ケアマネから情報を収集し把握に努め全職員で共有しケアに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の心身状態の把握に努め、楽しみや役割等の支援に活かしている 変化に気付いたときはケース記録に記入し皆で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で関係者との現状に即した話し合いがすべての利用者に対して出来ているとは言えない	介護計画は半年ごとに見直しをしている。見直しの際は家族、訪問看護師、協力病院の作業療法士、管理者、職員が参加するサービス担当者会議を開催している。利用者に変化が見られた場合は、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子と支援の様子を個別記録に残し職員間の情報を共有して実践に活かしているが介護計画の見直しには十分に活かしていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の申し出やDr.の指示により生まれるニーズに対して、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援に取り組んでいる		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出を控えている中、地域資源の活用はあまりできておらず、職員が地域資源となり出来るだけ豊かな暮らしを楽しむよう努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院でないかかりつけ医に通っている方が2名、往診が1名 関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	利用者は、今までのかかりつけ医を受診することもホームの協力病院を受診することもできる。かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、管理者が同行支援する事もある。家族対応の場合は、受診内容を聞き取り受診記録にまとめ、ホーム内で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師の来所の際気づきや情報を伝え必要な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の地域連携シートの作成と退院時のサマリーの依頼、入院が長期になる時は経過の問い合わせなど情報交換に努め利用者の支援が継続してスムーズに行えるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を お渡しして入居時現在の意向確認をしている あとは健康状態が変化した際に話し合いを行っている	ホームは「重度化・終末期ケア対応指針」を策定し、入居時に利用者・家族の同意を得ている。利用者が終末期に入った際は「看取り介護に関する指針」を基に、医師から家族に説明し、家族の同意を得たうえで看取りのケアプランを作成して、プランに沿った細やかな対応の実践に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い訓練しているが、全職員が身に付けているとは言えない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い方法を身に付けているが夜間の災害には夜勤者一人では対応できない可能性がある	コロナ禍の中、今年度は地震発生を想定し、瓦礫の中を人力車のように引いて移動できる緊急避難装置を車いすに装着して避難訓練を実施した。また、水害を想定して施設2階への避難、停電時を想定し卓上コンロでの炊飯なども実施した。	ホームは過去に停電を経験していることから、発電機を備えている。職員全員が、停電時に慌てず適切に対応できるよう、発電機の稼働訓練を実施することを期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬いプライバシーを損ねない声掛けをするよう心掛けている 特に外国籍の職員には言葉や声掛けの仕方などを教え人格を尊重するよう話している	職員は利用者に自分の家族と接するように対応することを心がけている。外国籍の職員に対しては、施設内研修で利用者のプライバシーへの配慮などについて伝えている。また、職員による不適切な言動があった場合は、その場で注意し合う環境ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物・お菓子・服の選択や入浴の順番、散歩の希望、食事の好みなど希望を表出できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節や天候に応じてそれぞれの希望を聞き、一人ひとりのペースで生活できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのひとらしい身だしなみが楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度カレーや豚汁など皆で手作りし一緒に召し上がっている 皆さん生き生きとした表情が見られ楽しんでいる テーブル拭き、トレー拭きや下膳は日常的に行っている方がいる 皆さんの嗜好に合わせてメニュー変更をしている	利用者の食事はリビング内の台所で調理されており、献立は管理者が利用者の希望を取り入れて作っている。季節毎に行事食を提供しているほか、月に一度のカレーづくりなどには、利用者も全員参加して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化を観察し食べる量を調節している 食事が低下してしまった方にはDr.に相談しエンシュアで対応している 水分は持病や健康状態・運動量により調節しそれぞれの習慣に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの生活習慣に応じ口腔ケアの支援をしている 義歯は必ず就寝前にお預かりして洗浄している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用しそれぞれの排泄パターンを把握し失禁前にトイレ誘導が出来るよう努力している 日中は全員トイレでの排泄をしそれぞれの力を活かした支援を行っている	利用者にはトイレで排泄してもらうことを基本とし、利用者個々の排泄パターンを把握して支援している。入院中はおむつだった利用者が、ホームに戻り布パンツに移行できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や水分を十分に摂り、それぞれの状態にあった運動を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水不足で節水しなければいけない状況があり、その後曜日を決めて入浴するようになり、継続している 時間帯は選択することが出来る	入浴は月曜と金曜の週2回としているが、利用者の状況によっては別日にするなど、柔軟に対応している。また、季節を感じる事ができるゆず湯や菖蒲湯の他、利用者一人ひとりに保湿剤を用意し、冬の乾燥肌を防ぐようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は夕食後好きな時間に休まれている 気持ちよく眠れるよう温度や湿度を調節している 昼は昼食後ひと眠りされる方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は持病の理解とお薬の理解に努めているお薬の変更があったときは特に症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2/3の利用者様は役割を担い皆の為に生き生きと活動されている 楽しみ事や気分転換はそれぞれにできるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に応じて個別の支援をしている コロナ禍で家族や地域の方との外出は出来ていない	ホームの敷地は小学校の跡地のため、庭が広く、桜並木もあり日常的に散歩ができる環境となっている。また、コロナ禍でも、利用者2人~3人の少人数で紫陽花や紅葉、寒桜見物にドライブしたり、道の駅でソフトクリームを買って車内で食べるなど、できる限り楽しめるよう支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名のみ自分でお金を持っているがそのほかの方はこちらで預り金として管理している必要な時に渡して支払いをする支援は一部で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は電話やラインが上手くできるよう支援している 事業所の電話でかけたり掛かってきたりやり取りしている方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔に心掛け3回/日の掃除を継続している 季節に応じて花や壁飾りを取り換え季節感を楽しみ居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのリビングは広く、1日3回清掃している。リビングには大きなソファを置くなど、利用者が寛いで過ごせるようにしている。また、大きなカレンダーを掛けて見当識障害に配慮している。壁は、職員と利用者と一緒に制作した飾り付けで季節感を出していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際で日向ぼっこを楽しんだりテレビの前でおしゃべりしながらテレビを見るなど思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は家族にセッティングをお願いしている机やいすを持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫しているがコロナ禍で模様替えなどはできていない	利用者の居室にはカーテン、エアコン、ベッド、クロゼットが備え付けられ、室内は利用者の動線が確保されている。利用者は家族と相談しながら、テレビや家族の写真、大正琴やお雛様など、思い思いの品を持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プレートをかけた見通しをよくしたりと自立した生活が送れるよう工夫している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと